

法華經為字訓序説——付、為字索引——

田 島 毓 堂

妙法蓮華經中の為字所在は表一のとほりである。^(註1)

これによれば618字乃至616字ある。No.367(提婆品)は大正蔵(第九卷)には校異が示されてゐない。「而為牀座」に当るが、現在流布の諸本本文では「而作牀(床)座」とするものが多い。大正蔵(この巻)には底本が示されてゐない。校合された諸本いづれも「為」であらうか。

疑問なきを得ない。高麗版は確かに「而為牀座」である。竜光院蔵本(明算二〇七五加點)は本文「而為牀座」とあるが、上欄に「作也」とする。大坪併治氏はこれを八天白訂Vとしてゐる。^(註2)つまり「作」を訂正本本文とみてゐるが、「作也」は漢字注とみられなくもない。立本寺本(寛治元二〇八七八八八、経朝移点)にも上欄に「或本為字作也」としてゐる。その他国訳大蔵経(大正8年5月、国書刊行会)本文には

「為しつ」と為字をあて、足利本仮名書き法華經(三三三)の翻字篇^(註3)では「為」が振つてゐる。但し、足利本の方は大正蔵を参考にしたものと思はれ、原漢文の文字に言及する証にはならない。No.526(藥王品)は大正蔵校異に「供養於世尊為求無上慧」の10字、元本・明本・博物館本になしとする。逆にいへば、他の校合諸本はこの10字をもつと解されるが、必ずしもさうとも限らぬことは、No.367の校合の様子にみら

れる。高麗版にはこの10字ある。心空刊の「倭点法華經」には、この10字があることはある。しかし、この10字は写真でみてはより紙であること一目瞭然であり、字体も字の大きさも他と異なりこの部分には訓点もない。この事情は日蓮の「文段法華經」にも同じい。「文段經」は手書きで書き加へてある。^(註4)この部分を訓読してゐるのは、昭和新冠国訳大蔵経(昭和4・5)のみであり、文化協会編「国語法華三部經」(昭和8・1)では、他本にこの文字のあることをのみ示してゐる。

618字といふ数字は、結果のみみれば慈恩大師窺基(空三六三)撰「法華經為為章」にいふところと符合する。^(註5)

ところで、この出現回数法華經全字数六万九千二百八十九字^(註6)(頂妙寺版による、表二参照)の0.89%に当り、数の上でも大切な文字である。ただ、出現回数順では第17位である(表三)。

かかる重要な文字であつたことと多岐にわたり注意すべきものであつたために、この字についてはすでに唐代に慈恩大師窺基が「法華經為為章」なる書を撰述してゐる。

本書は為字が平声、去声により各別義であり、平声291字、榮危反で「由、求、当、得、定、被、作、是、名」の九訓ありとし、去声327

〔表1〕法華經為字所在

上段：大正藏第九卷

中段：岩波文庫本法華經

下段：平樂寺書店版訳法華經

*印偶文

(1) 二 a 5 . 上 12 2 . 天 2	(2) 三 b 7 . 上 18 2 . 天 9	(3) 三 a 1 . 上 26 7 . 天 10	(4) 三 a 3 . 上 26 9 . 天 11	(5) 三 a 4 . 上 26 11 . 天 12
(6) 三 a 26 . 上 30 10 . 天 4	(7) 三 a 29 . 上 30 14 . 天 6	(8) 三 b 27 . 上 36 4 . 天 2	(9) 三 c 7 . 上 38 1 . 天 10	(10) 三 c 7 . 上 38 1 . 天 10
(11) 三 c 10 . 上 38 5 . 天 12	(12) 三 c 22 . 上 40 8 . 天 12	(13) 三 c 23 . 上 40 10 . 天 2	(14) 三 c 24 . 上 40 11 . 天 2	(15) 三 a 7 . 上 44 5 . 天 1
(16) 三 a 22 . 上 46 9 . 天 1	(17) 三 b 7 . 上 50 1 . 天 1	(18) 三 b 28 . 上 54 3 . 天 5	(19) 三 a 1 . 上 58 2 . 天 12	(20) 三 a 10 . 上 58 11 . 天 6
(21) 三 a 20 . 上 60 5 . 天 12	(22) 三 b 8 . 上 62 7 . 天 11	(23) 三 b 23 . 上 64 7 . 天 9	(以上序品 23例)	
(25) 三 a 26 . 上 78 15 . 天 7	(26) 三 b 29 . 上 80 3 . 天 9	(27) 三 b 29 . 上 80 3 . 天 10	(28) 三 c 2 . 上 80 5 . 天 11	(29) 三 c 27 . 上 84 10 . 天 10
(30) 三 a 3 . 上 86 2 . 天 2	(31) 三 a 6 . 上 86 6 . 天 5	(32) 三 a 14 . 上 88 2 . 天 12	(33) 三 a 27 . 上 90 6 . 天 1	(34) 三 b 1 . 上 90 9 . 天 3
(35) 三 b 2 . 上 90 11 . 天 4	(36) 三 b 5 . 上 92 2 . 天 7	(37) 三 b 6 . 上 92 3 . 天 7	(38) 三 b 9 . 上 94 1 . 天 10	(39) 三 b 9 . 上 94 1 . 天 11
(40) 三 b 14 . 上 94 8 . 天 2	(41) 三 b 14 . 上 94 8 . 天 3	(42) 三 b 21 . 上 96 9 . 天 9	(43) 三 b 21 . 上 96 10 . 天 10	(44) 三 c 20 . 上 102 8 . 天 8
(45) 三 a 1 . 上 104 1 . 天 2	(46) 三 a 7 . 上 104 7 . 天 6	(47) 三 a 10 . 上 104 10 . 天 8	(48) 三 a 14 . 上 104 14 . 天 10	(49) 三 a 27 . 上 106 12 . 天 7
(50) 三 a 3 . 上 108 2 . 天 10	(51) 三 a 22 . 上 110 5 . 天 9	(52) 三 a 24 . 上 114 3 . 天 4	(53) 三 a 26 . 上 114 5 . 天 5	(54) 三 b 7 . 上 118 11 . 天 5
(55) 三 a 16 . 上 120 7 . 天 11	(56) 三 c 3 . 上 122 8 . 天 8	(57) 三 c 24 . 上 124 13 . 天 9	(58) 三 c 27 . 上 126 1 . 天 11	(59) 三 a 5 . 上 126 8 . 天 3
(60) 三 a 15 . 上 128 2 . 天 9	(61) 三 b 2 . 上 130 4 . 天 7	(62) 三 b 4 . 上 130 6 . 天 8	(63) 三 b 14 . 上 132 1 . 天 2	(以上方便品 40例)
(64) 三 a 3 . 上 138 12 . 天 3	(65) 三 a 5 . 上 138 14 . 天 5	(66) 三 a 5 . 上 138 14 . 天 5	(67) 三 a 10 . 上 140 4 . 天 9	(68) 三 b 3 . 上 142 12 . 天 12
(69) 三 b 7 . 上 144 2 . 天 2	(70) 三 b 10 . 上 144 6 . 天 5	(71) 三 b 15 . 上 144 12 . 天 9	(72) 三 b 22 . 上 146 9 . 天 3	(73) 三 b 22 . 上 146 10 . 天 3
(74) 三 b 27 . 上 148 1 . 天 7	(75) 三 c 2 . 上 148 7 . 天 12	(76) 三 c 5 . 上 148 11 . 天 2	(77) 三 c 19 . 上 152 2 . 天 12	(78) 三 c 25 . 上 152 8 . 天 3
(79) 三 a 4 . 上 152 16 . 天 8	(80) 三 b 8 . 上 153 7 . 天 8	(81) 三 b 10 . 上 153 11 . 天 11	(82) 三 b 11 . 上 153 12 . 天 12	(83) 三 b 27 . 上 162 6 . 天 2
(84) 三 b 27 . 上 162 6 . 天 2	(85) 三 b 28 . 上 162 7 . 天 3	(86) 三 c 3 . 上 162 12 . 天 6	(87) 三 c 3 . 上 162 13 . 天 6	(88) 三 c 4 . 上 164 1 . 天 8
(89) 三 c 5 . 上 164 2 . 天 9	(90) 三 a 5 . 上 168 12 . 天 10	(91) 三 a 5 . 上 168 13 . 天 11	(92) 三 a 12 . 上 170 7 . 天 5	(93) 三 a 16 . 上 170 14 . 天 10
(94) 三 a 19 . 上 172 1 . 天 11	(95) 三 a 26 . 上 172 11 . 天 5	(96) 三 a 27 . 上 172 12 . 天 5	(97) 三 b 1 . 上 174 3 . 天 8	(98) 三 b 3 . 上 174 6 . 天 10
(99) 三 b 9 . 上 174 14 . 天 3	(100) 三 b 11 . 上 176 3 . 天 5	(101) 三 b 13 . 上 176 5 . 天 6	(102) 三 b 21 . 上 176 16 . 天 2	(103) 三 b 24 . 上 178 4 . 天 4
(104) 三 b 28 . 上 178 10 . 天 8	(105) 三 b 29 . 上 178 11 . 天 9	(106) 三 c 3 . 上 178 15 . 天 11	(107) 三 a 26 . 上 188 9 . 天 2	(108) 三 a 26 . 上 188 15 . 天 5
(109) 三 b 18 . 上 192 7 . 天 5	(110) 三 b 22 . 上 192 13 . 天 8	(111) 三 c 13 . 上 196 8 . 天 11	(112) 三 c 28 . 上 198 14 . 天 10	(113) 三 a 1 . 上 198 17 . 天 11
(114) 三 a 5 . 上 200 6 . 天 2	(115) 三 a 8 . 上 200 11 . 天 4	(116) 三 a 23 . 上 202 17 . 天 4	(117) 三 a 27 . 上 204 5 . 天 7	(118) 三 a 28 . 上 204 6 . 天 7
(119) 三 a 29 . 上 204 9 . 天 9	(120) 三 b 3 . 上 204 12 . 天 10	(121) 三 b 6 . 上 204 17 . 天 1	(122) 三 b 8 . 上 206 3 . 天 3	(123) 三 b 13 . 上 206 11 . 天 7
(124) 三 b 15 . 上 206 13 . 天 8	(125) 三 b 22 . 上 208 7 . 天 2	(126) 三 c 3 . 上 210 6 . 天 10	(127) 三 c 10 . 上 210 16 . 天 4	(128) 三 c 13 . 上 212 4 . 天 6

- (129) *五c 15 上 212 7 二 8
(131) *六a 14 上 216 14 二 6
(139) *六a 23 上 218 11 二 5 1
(144) *六b 6 上 220 12 二 5 10
(148) *七b 3 上 235 6 二 7
(153) *七b 29 上 240 9 二 8
(158) *八b 15 上 254 2 二 7
(163) *八c 5 上 255 15 二 9
(168) *九a 8 上 262 11 二 12
(172) *九c 7 上 272 4 二 6
(177) *十a 9 上 278 1 二 6
(182) *十b 2 上 282 4 二 11
(186) *十c 7 上 312 15 二 9
(191) *十一a 4 上 318 3 二 10
(195) *十一b 27 上 326 9 二 5
(以上授記品 17例)
- (205) *三b 12 中 14 4 二 9
(210) *三a 3 中 22 8 二 10
(215) *三b 14 中 30 5 二 6
(220) *三c 22 中 38 3 二 1
(225) *四a 19 中 48 5 二 11
(230) *四a 29 中 62 1 二 6
(235) *五c 8 中 68 13 二 12
(240) *六a 18 中 76 3 二 11
(245) *六c 14 中 84 2 二 10
(250) *七b 3 中 90 7 二 4
(254) *七b 24 中 92 11 二 7
(以上廣解品 24例)
- (130) *五c 18 上 212 11 二 10
(135) *六a 15 上 216 16 二 7
(140) *六a 26 上 218 15 二 3
(以上廣解品 81例)
- (149) *七b 19 上 238 10 二 10
(154) *七c 5 上 242 1 二 1
(159) *八b 20 上 254 10 二 10
(164) *八c 6 上 255 16 二 10
(以上廣解品 24例)
- (173) *九c 13 上 272 14 二 1
(178) *十a 10 上 278 3 二 8
(183) *十b 22 上 286 2 二 2
(187) *十c 14 上 314 10 二 7
(192) *十一a 19 上 320 4 二 10
(197) *十一c 11 上 328 9 二 2
(201) *三a 24 中 10 9 二 5
(206) *三b 24 中 16 5 二 5
(211) *三a 5 中 22 10 二 10
(216) *三b 26 中 32 11 二 6
(221) *三a 7 中 40 10 二 1
(226) *四b 19 中 48 5 二 11
(231) *五b 7 中 62 11 二 12
(236) *五c 22 中 70 16 二 11
(241) *六a 20 中 76 5 二 12
(246) *六c 25 中 84 13 二 5
(251) *七b 4 中 90 8 二 4
(255) *七b 28 中 94 3 二 10
(以上藥草喻品 17例)
- (131) *六a 2 上 214 14 二 9
(136) *六a 17 上 218 2 二 8
(141) *六a 27 上 218 16 二 3
(145) *六c 27 上 230 4 二 10
(150) *七b 23 上 238 16 二 2
(155) *七c 22 上 244 12 二 3
(160) *八b 21 上 254 11 二 11
(165) *八a 4 上 262 5 二 7
(169) *九b 15 上 268 8 二 12
(174) *九c 14 上 272 15 二 1
(179) *十a 12 上 278 6 二 9
(184) *十b 29 上 312 6 二 4
(189) *十c 17 上 314 14 二 9
(194) *十一a 18 上 320 17 二 5
(199) *十一c 3 上 332 6 二 7
(203) *三b 8 中 12 13 二 6
(208) *三c 12 中 20 1 二 8
(213) *三a 25 中 26 11 二 3
(218) *三b 29 中 34 2 二 9
(223) *四a 11 中 40 14 二 4
(228) *四b 15 中 48 5 二 5
(233) *五b 12 中 64 5 二 4
(237) *五c 25 中 72 4 二 2
(242) *六a 23 中 76 9 二 3
(247) *六c 23 中 84 13 二 5
(252) *七b 7 中 90 11 二 6
(256) *七c 11 中 96 5 二 10
(以上化城喻品 52例)
- (132) *六a 5 上 214 17 二 10
(137) *六a 19 上 218 5 二 10
(142) *六a 29 上 220 3 二 5
(146) *七a 3 上 230 11 二 4
(151) *七b 25 上 240 4 二 5
(156) *八a 19 上 248 17 二 11
(161) *八b 24 上 254 16 二 2
(166) *九a 5 上 262 6 二 8
(170) *九b 18 上 268 11 二 2
(175) *十a 1 上 276 7 二 2
(180) *十b 15 上 278 10 二 11
(184) *十c 29 上 312 6 二 4
(189) *十一c 17 上 314 14 二 9
(194) *十二a 18 上 320 17 二 5
(199) *十二c 3 上 332 6 二 7
(203) *三b 8 中 12 13 二 6
(208) *三c 12 中 20 1 二 8
(213) *三a 25 中 26 11 二 3
(218) *三b 29 中 34 2 二 9
(223) *四a 11 中 40 14 二 4
(228) *四b 15 中 48 5 二 5
(233) *五b 12 中 64 5 二 4
(237) *五c 25 中 72 4 二 2
(242) *六a 23 中 76 9 二 3
(247) *六c 23 中 84 13 二 5
(252) *七b 7 中 90 11 二 6
(256) *七c 11 中 96 5 二 10
(以上化城喻品 52例)
- (133) *六a 12 上 216 11 二 4
(138) *六a 21 上 218 8 二 11
(143) *六b 4 上 220 8 二 8
(147) *七a 25 上 234 12 二 1
(152) *七b 28 上 240 7 二 7
(157) *八a 21 上 250 2 二 1
(162) *八b 28 上 256 6 二 5
(167) *九a 6 上 262 7 二 9
(171) *九c 6 上 272 2 二 6
(176) *十a 4 上 276 11 二 3
(181) *十b 15 上 278 11 二 11
(185) *十c 6 上 312 14 二 9
(190) *十一c 20 上 316 2 二 11
(195) *十二b 27 上 326 8 二 4
(200) *十二a 9 上 332 16 二 12
(204) *三b 12 中 14 4 二 8
(209) *三c 26 中 22 1 二 4
(214) *三a 25 中 26 11 二 3
(219) *三c 20 中 38 1 二 12
(224) *四b 14 中 48 1 二 8
(229) *四a 22 中 60 3 二 12
(234) *五c 7 中 68 11 二 11
(239) *六a 14 中 74 12 二 7
(244) *六b 22 中 80 9 二 9
(249) *六c 29 中 94 4 二 2
(253) *七b 23 中 92 9 二 6
(258) *七c 19 中 96 14 二 4

- (259) 毛 c 22 中 98 7 二六八 8
 (264) 元 b 29 中 108 10 二六六 6
 (269) 元 a 10 中 114 11 二六九 9
 (274) 元 a 22 中 116 12 二七二 9
 (278) 元 b 26 中 122 6 二七四 4
 (283) 元 a 19 中 132 5 二七六 10
 (283) 元 a 28 中 134 1 二七九 5
 (292) 元 c 29 中 146 2 二八四 4
 (297) 元 b 23 中 152 14 二八七 8
 (302) 元 c 22 中 158 5 二九〇 10
 (307) 元 a 20 中 162 9 二九二 8
 (312) 元 b 3 中 164 6 二九三 3
 (以上法師品 26例)
 (321) 元 c 23 中 174 7 二九六 9
 (326) 元 a 10 中 178 7 二九八 11
 (331) 元 b 2 中 182 13 三〇一 5
 (336) 元 c 18 中 190 12 三〇三 8
 (341) 元 a 14 中 194 16 三〇六 4
 (346) 元 a 21 中 196 9 三〇九 10
 (351) 元 a 27 中 198 1 三一三 3
 (356) 元 b 3 中 198 9 三一六 7
 (361) 元 b 10 中 200 3 三一八 12
 (365) 元 c 2 中 204 10 三二一 7
 (370) 元 c 13 中 206 11 三二四 7
 (375) 元 c 23 中 208 5 三二六 1
 (380) 元 c 21 中 224 8 三三〇 4
 (384) 元 a 27 中 232 1 三三七 3
 (以上提婆品 18例)
 (385) 元 b 21 中 236 1 三三六 10
 (260) 毛 c 23 中 98 8 二六八 8
 (265) 元 c 12 中 110 8 二七二 2
 (270) 元 a 11 中 114 13 二七五 10
 (275) 元 b 1 中 118 7 二七八 4
 (279) 元 b 27 中 122 8 二八〇 5
 (284) 元 a 22 中 132 9 二八三 12
 (289) 元 b 1 中 134 3 二八六 6
 (293) 元 a 5 中 146 8 二八九 9
 (298) 元 b 25 中 152 17 二九二 10
 (303) 元 c 24 中 158 8 二九五 12
 (308) 元 a 21 中 162 10 二九八 9
 (313) 元 b 6 中 164 9 三〇一 5
 (317) 元 b 20 中 168 5 三〇三 3
 (322) 元 a 2 中 176 9 三〇六 4
 (327) 元 a 15 中 180 3 三〇九 3
 (332) 元 b 6 中 184 1 三一三 7
 (337) 元 c 21 中 190 16 三一六 10
 (342) 元 a 16 中 196 2 三一八 6
 (347) 元 a 21 中 196 10 三二一 10
 (352) 元 a 28 中 198 3 三二四 4
 (357) 元 b 4 中 198 11 三二七 8
 (362) 元 b 18 中 200 15 三三〇 7
 (366) 元 c 4 中 206 1 三三三 10
 (371) 元 c 13 中 206 11 三三六 7
 (376) 元 c 24 中 208 6 三三九 2
 (381) 元 a 1 中 226 4 三四二 2
 (385) 元 b 26 中 236 6 三四六 1
 (261) 元 a 25 中 102 13 二六八 8
 (266) 元 c 29 中 112 11 二七二 12
 (271) 元 a 14 中 116 2 二七五 1
 (276) 元 b 8 中 118 14 二七八 8
 (280) 元 c 10 中 124 13 二八〇 4
 (285) 元 a 25 中 132 13 二八三 3
 (290) 元 b 20 中 136 14 二八六 8
 (294) 元 b 18 中 152 7 二八九 2
 (299) 元 c 18 中 156 14 二九二 7
 (304) 元 c 28 中 160 1 二九五 3
 (309) 元 a 22 中 162 11 二九八 9
 (314) 元 b 7 中 164 10 三〇一 6
 (318) 元 b 29 中 170 4 三〇四 1
 (323) 元 a 2 中 176 9 三〇六 5
 (328) 元 a 24 中 182 3 三〇九 11
 (333) 元 b 10 中 184 7 三一三 11
 (338) 元 c 25 中 192 7 三一六 2
 (343) 元 a 17 中 196 4 三一八 7
 (348) 元 a 23 中 196 12 三二一 11
 (353) 元 a 29 中 198 5 三二四 5
 (358) 元 b 6 中 198 13 三二七 9
 (367) 元 c 6 / /
 (372) 元 c 16 中 206 14 三三〇 9
 (377) 元 a 5 中 210 4 三三三 11
 (381) 元 a 1 中 226 4 三三六 2
 (386) 元 b 26 中 236 6 三四〇 1
 (262) 元 b 11 中 106 1 二六八 5
 (267) 元 a 5 中 114 5 二七二 5
 (272) 元 a 16 中 116 4 二七五 3
 (277) 元 b 19 中 120 9 二七八 3
 (281) 元 c 15 中 126 6 二八〇 9
 (286) 元 a 25 中 132 13 二八三 3
 (295) 元 b 22 中 152 13 二八六 6
 (300) 元 c 20 中 158 2 二八九 8
 (305) 元 c 29 中 160 3 三〇二 4
 (310) 元 a 22 中 162 11 三〇五 9
 (315) 元 b 8 中 164 11 三〇八 7
 (319) 元 c 12 中 172 4 三一〇 12
 (324) 元 a 5 中 176 13 三一三 7
 (329) 元 a 26 中 186 6 三一六 1
 (334) 元 c 2 中 188 2 三一八 5
 (339) 元 a 10 中 194 11 三二一 1
 (344) 元 a 19 中 196 6 三二四 8
 (349) 元 a 24 中 196 14 三二七 12
 (354) 元 b 1 中 198 7 三三〇 6
 (359) 元 b 8 中 198 17 三三三 11
 (363) 元 b 27 中 204 5 三三六 4
 (368) 元 c 7 中 206 5 三三九 3
 (373) 元 a 21 中 208 3 三四二 12
 (378) 元 b 24 中 220 5 三四五 4
 (382) 元 a 19 中 230 2 三四八 8
 (387) 元 b 30 中 236 10 三五二 3
 (263) 元 b 15 中 106 5 二六八 8
 (268) 元 a 9 中 114 10 二七二 8
 (273) 元 a 18 中 116 7 二七五 5
 (282) 元 a 15 中 130 14 二八六 6
 (287) 元 a 26 中 132 14 二八九 4
 (291) 元 c 27 中 144 16 二九二 2
 (296) 元 b 23 中 152 14 二九五 7
 (301) 元 c 21 中 158 3 二九八 10
 (306) 元 a 5 中 160 10 三〇一 10
 (311) 元 a 26 中 162 15 三〇四 12
 (316) 元 b 11 中 164 14 三〇七 8
 (320) 元 c 13 中 172 5 三一〇 12
 (325) 元 a 10 中 178 7 三一三 11
 (330) 元 a 29 中 182 9 三一六 2
 (335) 元 c 18 中 190 11 三一八 7
 (340) 元 a 12 中 194 13 三二一 3
 (345) 元 a 20 中 196 8 三二四 9
 (350) 元 a 25 中 196 16 三二七 2
 (355) 元 b 2 中 198 7 三三〇 6
 (360) 元 b 10 中 200 2 三三三 12
 (364) 元 b 29 中 204 9 三三六 6
 (369) 元 c 10 中 206 8 三三九 5
 (374) 元 c 22 中 208 4 三四二 1
 (379) 元 c 19 中 224 5 三四五 2
 (383) 元 a 19 中 230 3 三四八 8
 (388) 元 c 4 中 236 14 三五二 6

- (389) 美 c 6 中 236 16 三九 7
 (393) 老 a 16 中 242 9 三九 6
 (398) 老 b 8 中 246 14 三九 2
 (403) 老 c 6 中 252 5 三九 11
 (408) 老 c 24 中 256 1 三九 2
 (413) 老 c 7 中 263 13 三九 11
 (418) 老 a 7 中 272 4 三九 12
 (423) 老 b 2 中 275 5 三九 8
 (428) 老 b 12 中 278 2 三九 3
 (433) 老 b 29 中 280 12 三九 5
 (437) 老 b 28 中 283 1 三九 1
 (442) 老 c 20 中 316 7 三九 7
 (447) 老 a 26 中 322 3 三九 10
 (451) 老 c 6 下 16 15 三九 10
 (456) 老 b 16 下 30 1 三九 9
 (461) 老 c 19 下 34 2 三九 5
 (以上群品 18 例)
 (470) 老 b 22 下 58 3 三九 12
 (475) 老 b 29 下 58 12 三九 6
 (480) 老 c 21 下 62 8 三九 1
 (以上分別品 19 例)
 (489) 老 a 22 下 84 1 三九 7
 (以上隨喜品 9 例)
 (498) 老 b 8 下 110 7 三九 9
 (以上法師功德品 9 例)
 (507) 老 a 3 下 136 4 三九 11
 (512) 老 a 25 下 140 7 三九 6
 (390) 美 c 12 中 238 5 三九 12
 (394) 老 a 27 中 246 1 三九 5
 (399) 老 b 28 中 250 10 三九 6
 (404) 老 c 8 中 252 9 三九 2
 (409) 老 a 7 中 256 17 三九 11
 (414) 老 c 13 中 263 5 三九 5
 (419) 老 a 14 中 272 8 三九 3
 (424) 老 b 4 中 276 7 三九 9
 (429) 老 b 17 中 278 10 三九 7
 (434) 老 c 7 中 282 5 三九 10
 (438) 老 c 19 中 302 2 三九 12
 (443) 老 c 26 中 316 16 三九 1
 (以上涌出品 12 例)
 (452) 老 c 10 下 18 3 三九 1
 (457) 老 b 28 下 30 13 三九 4
 (462) 老 c 24 下 34 7 三九 9
 (466) 老 c 22 下 48 15 三九 6
 (471) 老 b 24 下 58 5 三九 1
 (476) 老 c 3 下 58 17 三九 9
 (481) 老 a 6 下 64 8 三九 12
 (485) 老 b 26 下 72 6 三九 5
 (490) 老 a 25 下 84 4 三九 11
 (494) 老 b 2 下 98 4 三九 6
 (499) 老 b 25 下 114 1 三九 10
 (503) 老 c 3 下 130 2 三九 8
 (508) 老 a 7 下 136 11 三九 3
 (513) 老 b 20 下 146 3 三九 1
 (391) 美 c 17 中 238 10 三九 3
 (395) 老 b 3 中 246 8 三九 9
 (400) 老 b 29 中 250 12 三九 7
 (405) 老 c 10 中 252 12 三九 3
 (410) 老 a 12 中 258 7 三九 3
 (415) 老 c 15 中 268 8 三九 6
 (420) 老 a 16 中 272 17 三九 8
 (425) 老 b 7 中 276 12 三九 11
 (430) 老 b 24 中 280 3 三九 12
 (435) 老 c 13 中 282 11 三九 2
 (439) 老 b 19 中 310 16 三九 7
 (444) 老 a 10 中 318 13 三九 10
 (448) 老 b 5 下 10 6 三九 4
 (453) 老 a 7 下 22 6 三九 10
 (458) 老 c 2 下 30 16 三九 6
 (463) 老 c 26 下 34 9 三九 10
 (467) 老 a 14 下 52 9 三九 7
 (472) 老 b 25 下 58 6 三九 2
 (477) 老 c 6 下 60 4 三九 11
 (482) 老 a 14 下 66 2 三九 5
 (486) 老 c 2 下 74 1 三九 10
 (491) 老 b 4 下 84 12 三九 3
 (495) 老 b 5 下 98 7 三九 7
 (500) 老 c 21 下 116 15 三九 4
 (504) 老 c 3 下 130 3 三九 8
 (509) 老 a 9 下 136 13 三九 4
 (以上不怪品 11 例)
 (391) 美 c 17 中 238 10 三九 3
 (395) 老 b 3 中 246 8 三九 9
 (400) 老 b 29 中 250 12 三九 7
 (405) 老 c 10 中 252 12 三九 3
 (410) 老 a 12 中 258 7 三九 3
 (415) 老 c 15 中 268 8 三九 6
 (420) 老 a 16 中 272 17 三九 8
 (425) 老 b 7 中 276 12 三九 11
 (430) 老 b 24 中 280 3 三九 12
 (435) 老 c 13 中 282 11 三九 2
 (439) 老 b 19 中 310 16 三九 7
 (444) 老 a 10 中 318 13 三九 10
 (448) 老 b 5 下 10 6 三九 4
 (453) 老 a 7 下 22 6 三九 10
 (458) 老 c 2 下 30 16 三九 6
 (463) 老 c 26 下 34 9 三九 10
 (467) 老 a 14 下 52 9 三九 7
 (472) 老 b 25 下 58 6 三九 2
 (477) 老 c 6 下 60 4 三九 11
 (482) 老 a 14 下 66 2 三九 5
 (486) 老 c 2 下 74 1 三九 10
 (491) 老 b 4 下 84 12 三九 3
 (495) 老 b 5 下 98 7 三九 7
 (500) 老 c 21 下 116 15 三九 4
 (504) 老 c 3 下 130 3 三九 8
 (509) 老 a 9 下 136 13 三九 4
 (以上安樂行品 44 例)
 (440) 老 c 4 中 312 14 三九 5
 (445) 老 a 22 中 320 11 三九 6
 (449) 老 b 14 下 12 11 三九 3
 (454) 老 a 13 下 24 13 三九 2
 (459) 老 c 3 下 30 17 三九 7
 (464) 老 c 27 下 34 10 三九 11
 (468) 老 a 28 下 54 8 三九 5
 (473) 老 b 26 下 58 8 三九 3
 (478) 老 c 12 下 60 12 三九 4
 (483) 老 b 2 下 68 7 三九 3
 (487) 老 c 20 下 76 15 三九 3
 (492) 老 b 10 下 86 2 三九 7
 (496) 老 c 5 下 102 9 三九 5
 (501) 老 b 10 下 124 5 三九 3
 (505) 老 c 5 下 130 4 三九 10
 (510) 老 a 15 下 138 7 三九 10
 (514) 老 a 5 下 156 5 三九 12
 (392) 老 a 11 中 242 3 三九 2
 (397) 老 b 7 中 246 12 三九 1
 (402) 老 c 3 中 250 16 三九 8
 (407) 老 c 12 中 252 15 三九 5
 (412) 老 b 14 中 263 3 三九 5
 (417) 老 a 4 中 270 16 三九 9
 (422) 老 a 26 中 274 15 三九 4
 (427) 老 b 10 中 276 17 三九 2
 (432) 老 b 28 中 280 9 三九 3
 (436) 老 a 25 中 292 6 三九 10
 (441) 老 c 17 中 316 3 三九 5
 (446) 老 a 24 中 322 1 三九 8
 (450) 老 b 24 下 14 13 三九 12
 (455) 老 b 9 下 28 7 三九 4
 (460) 老 c 18 下 34 1 三九 4
 (465) 老 a 2 下 36 1 三九 2
 (469) 老 b 18 下 56 13 三九 7
 (474) 老 b 28 下 58 11 三九 5
 (479) 老 c 18 下 62 4 三九 10
 (484) 老 b 8 下 70 3 三九 7
 (488) 老 a 3 下 80 7 三九 1
 (493) 老 b 21 下 86 13 三九 3
 (497) 老 c 11 下 102 17 三九 10
 (502) 老 b 20 下 125 15 三九 10
 (506) 老 c 5 下 130 5 三九 10
 (511) 老 a 23 下 140 5 三九 5
 (515) 老 a 16 下 158 8 三九 9

- (以上妙音品 21例)
- (516) 毫 b 1 下 160 11 毫 9
(520) 毫 c 18 下 168 6 毫 3
(524) 毫 a 22 下 174 16 毫 6
(528) 毫 a 21 下 196 4 毫 5
(532) 毫 a 28 下 198 3 毫 10
(536) 毫 b 9 下 200 4 毫 7
(540) 毫 c 4 下 204 10 毫 4
(544) 毫 a 23 下 212 10 毫 5
(548) 毫 b 23 下 218 12 毫 7
(552) 毫 c 6 下 220 12 毫 5
(556) 毫 b 4 下 228 8 毫 5
(560) 毫 a 25 下 232 10 毫 1
(564) 毫 b 2 下 254 5 毫 6
(568) 毫 b 8 下 254 13 毫 11
(572) 毫 b 15 下 256 6 毫 5
(576) 毫 b 15 下 260 13 毫 3
(580) 毫 c 5 下 276 6 毫 8
(以上陀羅尼品 6例)
- (605) 毫 c 3 下 304 8 毫 3
(609) 毫 b 2 下 322 2 毫 12
(614) 毫 c 9 下 328 4 毫 8
(以上勸修品 13例)
- (517) 毫 b 3 下 160 13 毫 11
(521) 毫 c 20 下 168 8 毫 5
(525) 毫 b 20 下 182 5 毫 4
(530) 毫 a 23 下 196 6 毫 6
(535) 毫 a 29 下 198 5 毫 11
(540) 毫 b 10 下 200 5 毫 8
(545) 毫 c 9 下 206 1 毫 8
(549) 毫 b 19 下 218 7 毫 4
(554) 毫 b 23 下 218 12 毫 7
(558) 毫 c 28 下 226 5 毫 2
(562) 毫 b 5 下 234 10 毫 6
(566) 毫 a 10 下 242 11 毫 7
(570) 毫 a 26 下 252 12 毫 2
(574) 毫 b 3 下 254 7 毫 7
(578) 毫 b 9 下 254 15 毫 12
(582) 毫 b 17 下 256 10 毫 7
(586) 毫 c 21 下 262 5 毫 7
(590) 毫 c 9 下 276 11 毫 12
(601) 毫 a 3 下 292 6 毫 9
(以上嚴王品 5例)
- (610) 毫 b 7 下 322 9 毫 6
(615) 毫 a 1 下 330 14 毫 10
(518) 毫 b 12 下 162 7 毫 5
(以上願果品 3例)
- (526) 毫 b 25 / /
(531) 毫 a 24 下 196 7 毫 7
(536) 毫 b 5 下 198 11 毫 3
(541) 毫 b 10 下 200 5 毫 8
(546) 毫 c 25 下 208 6 毫 9
(550) 毫 b 20 下 218 7 毫 4
(555) 毫 b 24 下 218 12 毫 7
(560) 毫 a 15 下 230 6 毫 2
(565) 毫 b 6 下 234 11 毫 6
(569) 毫 c 11 下 244 2 毫 9
(574) 毫 a 27 下 252 13 毫 3
(579) 毫 b 5 下 254 9 毫 8
(584) 毫 b 10 下 254 16 毫 1
(589) 毫 b 19 下 256 12 毫 8
(594) 毫 a 29 下 266 11 毫 8
(598) 毫 a 5 下 278 7 毫 7
(602) 毫 a 12 下 294 8 毫 5
(606) 毫 a 16 下 318 2 毫 8
(611) 毫 b 14 下 324 3 毫 11
(616) 毫 a 2 下 330 15 毫 11
(以上神力品 5例)
- (522) 毫 a 19 下 174 11 毫 2
(527) 毫 c 19 下 188 4 毫 2
(532) 毫 a 25 下 196 9 毫 7
(537) 毫 b 7 下 200 1 毫 5
(542) 毫 c 3 下 204 8 毫 4
(547) 毫 a 22 下 212 9 毫 5
(552) 毫 b 21 下 218 8 毫 4
(557) 毫 c 1 下 220 5 毫 1
(562) 毫 a 29 下 234 3 毫 1
(567) 毫 b 8 下 234 14 毫 8
(571) 毫 a 24 下 252 8 毫 12
(576) 毫 b 1 下 254 3 毫 5
(581) 毫 b 7 下 254 12 毫 10
(586) 毫 b 14 下 256 5 毫 4
(591) 毫 b 10 下 260 8 毫 12
(595) 毫 a 14 下 272 8 毫 6
(600) 毫 a 21 下 280 7 毫 7
(604) 毫 b 14 下 300 12 毫 10
(608) 毫 a 26 下 320 10 毫 8
(613) 毫 c 4 下 326 9 毫 2
(618) 毫 a 7 下 332 5 毫 4

数 字	字 文	位 順
1,425	仏	1
1,186	是	2
1,163	諸	3
933	法	4
887	無	5
803	如	6
760	説	7
746	於	8
715	世	9
713	衆	10
661	菩	11
646	所	12
635	不	13
624	有	14
620	薩	15
619	我	16
616	為	17
607	人	18
600	一	19
590	得	20
584	大	21
579	以	22
537	生	23
528	等	24
520	若	25
496	此	26
495	者	27
485	時	28
484	其	29
477	而	30
473	之	31
433	經	32
423	羅	33
421	女	34
419	三	35

〔表三〕 法華經中の頻出字（異なり字数 1,718 字）
 卯木正亨氏「法華版経の研究」（昭26・1）附録による

字 為	計	文 偈	行 長	品 目
23	4,173	1,892 (15)	2,281 (8)	序
40	4,919	3,180 (27)	1,739 (13)	方
81	6,594	3,510 (47)	3,084 (34)	譬
24	3,269	1,384 (14)	1,885 (10)	信
15	1,659	872 (11)	787 (4)	草
17	1,819	844 (8)	975 (9)	授
52	5,907	2,150 (29)	3,757 (23)	化
25	2,300	900 (8)	1,400 (17)	五
13	1,237	340 (7)	897 (6)	人
26	2,147	690 (10)	1,457 (16)	法
46	2,635	768 (28)	1,867 (18)	宝
17	1,740	260 (8)	1,480 (9)	提
11	1,195	416 (7)	779 (4)	勅
44	3,225	1,468 (27)	1,757 (17)	安
12	2,779	984 (7)	1,795 (5)	涌
18	2,019	510 (10)	1,509 (8)	寿
19	2,665	1,160 (6)	1,505 (13)	分
9	1,306	380 (5)	926 (4)	随
9	3,064	1,600 (6)	1,464 (3)	法助
11	1,499	312 (1)	1,187 (10)	不
5	1,124	320 (3)	804 (2)	神
3	463	0 (0)	463 (3)	唵
24	2,789	50 (0)	2,739 (24)	藥
21	2,070	0 (0)	2,070 (21)	妙
27	2,062	520 (4)	1,542 (23)	額
6	1,227	284* 50 (0)	893 (6)	陀
5	1,715	40 (0)	1,675 (5)	敝
13	1,688	129* 0 (0)	1,559 (13)	普
616	69,289	413* 24,590 (288)	44,276 (328)	計

*印は陀羅尼、但し、陀羅尼の注は含まず。

() 内は為字数。

提・藥は大正藏經では各1例増す、提は長行中、藥は偈文中の例。

上表には、題号の文字は含まない。

〔表二〕 法華經各品別文字延べ数付為字数（頂妙寺版・平樂寺書店版による）

字、榮偽反で「以、与、助」の三訓ありとし、各品毎に、為字を含む四文字を取り出し、それぞれに前記の訓を一つ又は二つ以上注し、かつ、各品毎に、平・去それぞれ何字、合計何字と記し、総計618字としてゐる。元禄十年刊記の和刻本によれば、正統蔵所収本の誤植を若干訂正できるほか、各々為字に声点がさされてゐる。ただ、いづれによつても、訓の空欄の部分はそのまま残るし各品末の数字には錯乱があり実際の挙例との数字の不一致等は解消しない。仏書解説大辞典の解説（橋本凝胤師）では、若干の補訂を加へて数字の一覧を掲げてゐるが、これも更に混乱を増してゐる。合計わづか六百なにかしの計算が正しく行はれてゐない。本書についての詳細は別の機会に述べ、本稿では概略にとどめる。その数字について若干の補訂を加へたのが表四である。若干の補訂とは、訓が空欄のもの（№97・119・144・185・189・249・289・295・299・379・389・428・451）12箇所と同類から推して最適と思はれる訓を与へたこと、及び、例へば、方便品に「而為衆生^三」とある「三」を「四」と直したといふことである。（この「三」は出現順にいへば№36402の三つに当るが、もう一つ№44も同一である。）

そのほか為為章にある訓が不審に思はれるものがいくらかあるが、それについては、和刻本、正統蔵本によつてゐるための限界もあらうかと思はれるので、この表では一切改変には及んでゐない。不審の表明にとどめる。なほ、和刻本と正統蔵所収本で訓不一致はない（「被」を「破」と誤植する等を除いて）。

詳細は別の折を期するが、不審の一二を述べる。№11「為説何等」

は「定又当与」とあり、平・去にまたがる。窺基撰の本にかくあつたであらうか。さうは考へにくい。№17「為人演説」は何故「由」と注されるのか。他に類例を求めれば、№20「為汝等説与」№35「為衆生説与」№178「為大衆説与」№292「広為人説与」、№346「為衆演説与」、№403「為女説法与」、№478「為他人説与」、№489「為人分別与」等、多数の例があるが、いづれも「与」であり、№17の例も同様に考へられる。№82「為化菩薩説」も理解しにくい。この他にもいくつも疑問があるが、特に、№184188192「得成爲仏^三」（№291も同じ）は、日蓮上人の「法華訳和尋跡抄」（元和七・六三二年成、寛文九・六六九年刊）でも「不審無限」としてゐる。

なほ、№367は「而為牀座^作」として掲出してあるが、№526は該当するものないので、他が全同とすれば計617となり、618は不合理となる。しかしこの為為章が、唐の窺基によることを考へると、誤写の可能性はあるものの、法華経の「為」字の意味を考へる上で最大限に尊重さるべきものと考へる。ただ、前掲のうち、「得成爲仏」の「当」なる訓は、単なる誤写とは考へられない。これは授記品及び五百弟子品の用例で、世尊が、摩訶迦葉（184188）、須菩提（192）、富樓那（264）に記を与へる場面に用ゐられてゐる。

立本寺本では「当也」とし、184188192については、興福寺寿慶聖人の注で「マサニアラン」としてゐる。当^二將と考へてかうよむことは理由のないことではないが、この字順からさう考へてよいかどうか。日蓮上人はこれに疑問を呈してゐるのである。即ち、「恐^{ハレ}是、如^ニ

計 合	声 去				平										是 訓 品
	計 小	助	与	以	計 小	名	是	作	被	定	得	当	求	由	
23	⁺¹ 14〔13〕		⁺¹ 11	2	⁺¹ 9〔10〕	1	2	2		3	1	⁺¹		1	序
40〔39〕	30〔32〕		21	11	⁺¹ 10〔8〕	1	4	⁺¹		2		1			方
81〔76〕	35〔33〕		22	11	⁺³ 46〔48〕	3	⁺¹ 10	⁺² 15	15	2	3				啓
24〔23〕	10〔9〕		9		⁺¹ 〔15〕		4	⁺¹ 7			4				信
15	10		9	1	5		3	2							草
⁽¹⁷⁾ 11〔17〕	5		3	2	〔12〕			8			1	3			授
52	⁺¹ 31〔30〕		21	⁺¹ 9	22		9	12				1			化
25	7		2	5	⁺² 18		⁺² 3	12			2	1			五
13	2		2		11	1	1	8			1				人
26	16		16		⁺² 〔10〕	2	1	⁺¹ 3	⁺¹		4				法
⁽³⁵⁾ 45〔46〕	16〔15〕		8	7	30〔31〕		18	12				1			宝
18	15		9	6	3			3							提
11	3〔4〕			4	⁺¹ 8〔7〕		2	3	⁺¹		1	1			勸
44〔43〕	27		24	3	⁺¹ 17		⁺¹ 7	9			1				安
13〔12〕	9〔8〕		5	3	4		2	1		1					涌
18	13		10	3	5		1	3	1						寿
19〔16〕	6 ⁺¹		⁺¹ 5	1	13		10	1	1		1				分
9	5		4	1	4		1				2	1			随
9	9		8	1	0										法め
11	10		10		1	1									不
5	4		2	2	〔1〕			1							神
3	2		1	1	1		1								囑
23〔25〕	3〔4〕		3	1	⁺¹ 21		15	⁺¹ 3	3						藥
21	12		10	2	9			9							妙
27	22〔23〕		22	1	4			2	2						観
6	2		1	1	4		4								陀
5	4		3	1	1		1								戯
13	3		2	1	10		1		4		5				普
618	327 ⁺³ 〔323〕	0	⁺² 243	⁺¹ 80	⁺¹³ 291〔295〕	9	⁺⁴ 100	⁺⁶ 116	⁺² 26	8	26	⁺¹ 9	0	1	計

合計欄()内、突摩の挙例数。〔 〕内、私に訂した数(本文参照)。

無印の数値は各品毎に示されたる数。小計欄の計は為為章の最初に合計として示されたる数。÷は一箇所に二訓以上あるものの、第二訓以下のもの。

薬王品は No.525 を加ふ。

〔表四〕 「法華経為為章」訓分類(元禄十年和刻本・三蔵藏經本による)

余、章云「当得作仏、当得成仏」、一本云「為得成仏故、釈者云訓当」。然、後人、見「釈」中「為得成仏」文、違「經」現本「得成爲仏」、即改「釈文」為「得成仏」、亦作「得成爲仏」歟。或云、今既「記未來成仏」、得「成」為「成」可読也、答不可然。……今、成、為、二、字、合、ナルト、可、読、況正法華、亦云「得成爲仏」。或云「當成爲仏」。或云「於當來世成爲最勝」。是成爲、……故知、今「得成爲仏」之爲「訓成」、訓「作分明」。然、末師、云「訓当者如上言」、或恐誤歟」(尋跡抄、本満寺刊本、309-310頁)とのべ、「當得成仏」との混同かと疑つてゐる。さらによく考ふべきことがあらう。これに「当」と注することが為章の本本の誤りと輕輕に断ぜられぬのは、「補注、科注、此為訓当。」と右条の最初にあり、また、立本寺本漢字注も恐らく為章と無関係とは思へないからである。№164は立本寺本「成爲ルコト得(当)」とあり、竜光院本も「成爲る」である。これには直接「当」とは注されてゐない。

かういふ問題はあるが、為章章訓は十分尊重すべきこと前記のとほりである。

次に、表に従つてその訓の内容をみる。「助」と注されるものは一例もない。立本寺本に一例、和訓「タスケ」がある(№336)。この為章章訓は「与」である。「由」は前述の如き疑問の一例のみである(№17)。「与」が約四割の23例を占める。和訓との関連でいへば、「与」と注されるものも、次の「以」と注されるものも、共に「タメニ」に該当すべきものであるが、「以」の場合、「以」なる文字に影

響されて「モチ(モツテ)」とよまれることが多い。竜光院本の漢字注には「与」は一つもなく(表六参照)、専ら「以」とするものを丁寧に注してゐる。これは、「与」と注すべきものは「タメニ」に当り、「為」字の意味としては至極当然で、一々注するに及ばぬとの考へに出たものと推量される。もう一歩つこんでいへば、「与」は行為を受ける対象をあらはすもので「誰それに対して」「誰それに向つて」の「に対して」「に向つて」にあたり、これはもつと國語としてなだらかにいへば、中には格助詞「に」だけで済むものもある。もつとも、訓読の常として、一旦一つの漢字が当てられたものは何とか読まうとして、あたりさはりなく「…のために」といつたまでである。しかし、「タメニ」の和訓は、むしろ「以」と注されるものにこそ一層よく適合する。特に「…せんがために」といふやうなものによくあてはまる。「以」と注されるものは、行為の直接目的たる名詞が「為」字の下にくる場合、あるいは、一つの行為が他の行為の目的になつてゐる場合(つまり、「…せんがために」と訓まれるやうな場合)である。これをモツテとよむ例が法華經訓読中に多数あるが「以」字に引かれたとしかいへない。№102「如_レ彼諸子為_レ求_ニ羊車_一出_ニ於_ニ火宅_一」を「羊車を求むるをもて」(頂妙寺版訓点による)(國訳一切経では「求むるを以て」とする)とよんだところで、日本語として何ほどの意味があらうか。日蓮はこのことを後記のごとく不得要領に述べてゐるが、「羊車を求めんがために火宅を出づるが如く…」で何らさしつかへないどころか、まさにかうあるべきだと思ふ。№169「為_ニ聽_ニ法故_一」を立本寺

本では「法を聴カムヲ^{以テ}為^レての故なり」とする。「ための故」といふ訓も国語として上乗とはいへぬが、「モテの故」よりは少なくともよくわかる。日蓮は尋跡抄で次の如くいふ。右掲の例について「為^シ求^ル羊車^ヲ。求^ム云^ハ点^ハ、非也。得^ルタメ^ニ云^ハ、可^レ然。求^ム欲^スセンカタメ、不可被^ス云。諸本^ニ皆求^ムタメアリ。義無^ニ相違^ハ、幸^ニ訓^ニ以^テ求^ムモテ^ヲ読^ム、可^レ然也。タメ^ニ読^ム、所以^ニ義^ニナルトハ不同也。能^レ思^フ之。」(247頁)と、タメを「理由(所以)」の義に引きつけて、ここではかく主張してゐるが「モテ」とよむ理由も大して積極的ではない。「得ンガタメ」がよく「求ンガタメ」がよくない理由があるであらうか。また、№116「為此等故説於苦諦」は多く「此れ等を為^テの故に苦諦を説きたまふ」とよんでゐる(頂妙寺版による。国訳一切経、昭和新聞国訳大蔵經、国語法華三部經、漢和对照法華經なども同じ)。これに対して尋跡抄は「コレヲカタメヨメ、与^ニ義^ニ、成也。第三卷ノ、為^テ是等故説於涅槃之為^ニ、訓^ニ与^ニ。故彼^ハ、タメ^ニ読^ム也。恐^ハ、上有^ニ知字^ニ故^ニ、異^{ナル}歟。今既^ニ、訓^ニ以^テモテ^ヲ読^ム、可^レ簡別^ス歟。次^ニ、為^テ是等故^ニ、同之。」(261頁)といひ、与^ニタメ^ニ、以^テモテ^ヲと簡別してゐる。しかし、尋跡抄は先には次のごとく述べてゐるのである。(№34の例の箇所)「諸^ノ有^ニ所作^ニ常^ニ為^ニ一事^ニ。而^ハ仮名本^ニ、尔也。此^ハ、為^ニ訓^ニ以^テ。和語^ニ、一語^ニ、多義^ニアル多之。君^ノタメナト云^ハ、与^ニ義^ニ、当^ル也。某事^ヲ作^ス為^ニ、先此事^ヲ作^スナト云^ハ、以^テ義^ニ、当^ル也。故^ニ、今^ニ為^テ汝等説取実事等^ニ、与^ニ也。為^テ法故等^ニ、以^テ也。故^ニタメ^ニ云^ハヘトモ、此意^ハ、依^テ処^ニ不同也。其不同^ハ、能^レ可思分^ニ、事也。又モテ^ヲ、読^ム處^ニ、持^テ義^ニ、以^テ義^ニ、用^ニ義^ニ、不同^ハ。是^ハ、随^テ處^ニ、可^レ并

事也云云。以^テ訓^ニ處^ニ、必^ニモテ^ヲ、可^レ読^ム云^ハ、非也。云云」(198~199)と全く正しい理解を示してゐたのである。

広浜文雄氏は天理図書館蔵本妙法蓮華經の為字のよみとして「与」なる漢字注があるによつて「トモニ」とよむものとしてをられる。^(註9)

「与」は確かに「トモニ」とよめぬことはない。しかし、全体を見渡した場合、トモニで押通すわけにはいかない。かへつて「与」を「タメニ」と訓すべき例も出てくる。^(註10)

「求」と注するものも一例もない。もつとも、立本寺本に№387(勸持品)に「求也」と注する。但し、この為^ニ章訓は「得」である。また№336は、(宝塔品)尋跡抄「不^ニ勤^ニ為^ニ法^ニ文^ニ。補注、科注、為^ニ訓^ニ内^ニ句解、以^テ求^ニ、釈^ニ為^ニ」(373頁)とある。為^ニ章では「与」である。^(註11)

「当」の訓9例ある。これについては一部前に述べたが若干問題がある。立本寺本、竜光院本に「マサニ」とよまれてゐるものがあるが、それは一部であり、また、マサニという和訓は、足利本に一例みられるが(№209)他に継承されてゐない。足利本のこの例、翻字篇では、特に軸末に、大正蔵では「為^ニ得^ニ最大利^ニ」とありと注する。「まさにさいたひの理をえつ」なる訓みが、大正蔵の本文と合致しないと疑つたものと思はれる。為^ニ章ではまさに「当」としてゐる。但し、立本寺本は「是也」の漢字注があり、科注でもこれを「訓是」とし、尋跡抄も「訓是」としてゐる(325頁)。この「当」訓については改めて考へを述べたい。ただ、一言つけ加へれば、「為」に「ベシ」なる和訓が出てくるのは近世以降らしいのであるが、この和訓は「当」訓と密接に

関連し、特に日蓮上人は、古注、古点が「当」としてあるものは、両説あつたり、よほどの疑問でもない限り、躊躇なく「為」を「ベシ」と訓じてあるかに見うけられることである。

次に「得」は26例ある（Na 1 69 75 120 145 150）^(註14)。得作^(註15) V 155 161 197 255 257 281 293 296 ^(註16)。得被作^(註17) V 297 298 387 414 468 492 493 507 513 514 515 516。個々の例についてみると種々の問題が出てくる。特に受身との関係が微妙であるが、ここではその指摘にとどめる。これについて、大坪併治氏が、為字の和訓に関して、「ウは何に基づく訓か知らない」とされてあるが、そこで問題にされてゐるのはNa 1の例で、為為章「得」とするものである。この漢字注、及び和訓と為為章訓との関連は十分推定できる。

「得」に関していへばNa 120の訓は奇妙である。即ち頂妙寺版で「名^(註18)為^(註19)解脱^(註20)」としてゐるのを引きついでゐるのであるが、平樂寺版訓訳（大正5・8初版）でこれを「解脱を得と名く」としてゐる。（これはこの訓訳本の方針からいへば「為」とすべきを誤つたものである）。

これを受けてか、国訳一切経（馬田行盛訳、昭3・12）の訓訳文も、「漢和对照法華経並開結」（大島仲太郎、田中喜久二著、昭18・1）も全く同一である。「国語法華三部経」（昭8・1）は「解脱を得と名^(註21)為^(註22)」と苦心してゐるが、先行訓訳文に引きずられてゐることは明らかである。この四句前に「名得解脱」とあるのと混同したものであらうが、これを無批判に、あるいは苦心してうけつた結果である。竜光院本「解脱を^(註23)為^(註24)（たそ）（と）名（つく）」としてゐる。

「定」は8例ある（Na 9 10 11）^(註25)。又当与^(註26) V 26 27 65 ^(註27)。定是^(註28) V 66 ^(註29)。定是^(註30) V

436。大坪併治氏が「サダメテも何に基づくかわからない、…」とし^(註31)。この和訓の適不適について疑ひを表明してをられるが、問題となつてゐる例は、Na 9 10にあたるもので、為為章訓「定」であり、さきの「得」の場合同様、この漢字注及びそれによる和訓と為為章訓との関係が強く印象づけられるのみならず、十分の根拠をもつて関連性を指摘しうる。この点さらに後述する。

「被」は26例ある（Na 82 83 85 88 89 94 98 100 107 108 ^(註32) 109 126 127 128 130 454 467 542 543 544 568 593 608 612 617 618）^(註33)。この中には、到底肯定しえないものがあること前に指摘した。この訓をもつ例は、平安朝の和訓と、中世以降のものともいふべき「カウブル」「カブル」がそのまま「為」字の和訓として与へられてゐたが、この和訓は中世以降は姿を消し、「ル」「ラル」によつてすまされるやうになる。また、これは「得」訓のものと関連がふかくその関係は微妙である。今、その一々について述べられないが、一例しておかう。

Na 1、常為^(註34)諸仏之所^(註35)称歎^(註36)（訓点は大正蔵による）

・常に諸仏に^(註37)（之）称歎^(註38)せ所^(註39)（る）ことを為^(註40)タリキ（立本寺本、一頁下2）^(註41)

・常に諸仏に^(註42)（之）称歎^(註43)（せ）所^(註44)（る）ことを為^(註45)タ^(註46)（竜光院本、一〇一）^(註47)

・つねに諸仏のためにしよたむせられたてまつる（足利本仮名書き法華経、一21）

華経、一21）

・常^(註48)為^(註49)諸仏之所^(註50)称歎^(註51)（心空刊倭点法華経、一16）

・常^(註52)為^(註53)諸仏之所^(註54)称歎^(註55)（尋跡抄、157頁）

。常^ニ為^ニ諸^ニ仏^ニ之所^ニ稱^ニ歟^ニ（頂妙寺版）

。常に諸仏に称歟せらるることを為^ニ（島地大等「漢和对照妙法蓮華經」八
3・8V、平樂寺書店版、国訳大蔵經、国訳一切經、昭和新纂国訳大蔵經、国
語法華三部經、漢和对照法華經並開結、岩波文庫本）

。常に諸仏に称め歟へられ（山川智広「和訳法華經」八明45・1V）

この例、為^ニ章訓「得」。足利本、倭点、和訳以外すべて「え」とよ
まれてゐる。足利本、倭点、和訳も、訓み方こそ異なるが、意味する
ころは明らかに受身であり、他の「え」と訓んでゐる方が、かへつて
「得」に引かれすぎてゐる氣味もある。そのため、受身表現でありな
がら、それに徹しきれず、それかといつて「為^ニ（之）所^ニ十^ニ八^ニ動詞^ニV」
といふ受身と解される文から離れることも勿論できず、両者は合はせた
やうな訓読になつてゐる。

№12 亦不^レ為^ニ女人之所^ニ惑^ニ乱^ニ一

。亦女人に「之」惑^ニ乱^ニ（せ）所^ニル、ことを為^ニフラ不^レ（立本、一一〇頁上5）

。亦、女人に「之」惑^ニ乱^ニ（せ）所^ニ（る）ことを為^ニ（ら）不^レ（電本、八〇16）

。又、女人のためにわくらんせられし（足利本、八135）

。亦不^レ為^ニ女人之所^ニ惑^ニ乱^ニ（倭点、八351）

。亦不^レ為^ニ女人文^ニ（尋跡抄、509頁）

。亦不^レ為^ニ女人之所^ニ惑^ニ乱^ニ（頂妙寺版）

。亦女人の為に惑はされ乱されし（和訳）

。亦女人に惑乱せられし（平樂寺、国訳大、国訳一、国語、对照法華）

。亦女人に惑乱せられず（对照妙法、新纂）

法華經為字訓序説

。亦女人の惑乱する所とならざらん（岩波）

為^ニ章訓「被」。これも受身表現であること明瞭である。カウブル
の和訳は、まさに「被」につけられたのであることが感じられる。そ
の裏、「被也」といふ注は、その文脈での「為」字の意味を指摘する
ものであつて、必ずしも「カブル」「カウブル」といふ和訳を要求す
るものではない筈である。「為」字が受身表現であることを示してゐ
るにすぎないのである。カウブルといふ和訳はむしろ短絡と称しても
よからう。但し、かういふことは多かれ少なかれ諸処にみられる。カ
ウブルが後にうけつがれなかつたのは「せらるることをかうぶる」
がいかに重複くさく、聞のびがしてゐたためかもしれない。「ル」
「ラル」で十分であらう。岩波文庫本の訓読文は、伝承からかなり自
由になつてゐるが、ここでのよみ方は「為」字が受身を表現する際の
あり方を象徴するかのやうである。「為」字が、「是」であつたり、
「被」「作」であつたりするのは、それだけ切り離してみるならば、互
になかなか連絡のつかぬものであるが、このよみはそれをつないでゐ
る。但し、このよみ方に感心するのではない。この例の文構造も「為^ニ（之）所^ニ十^ニ八^ニ動詞^ニV」で№1の例と全く同一である。しかるに、ここ
には一つとして「ウ」とするよみはない。これも為^ニ章疏の訓の影響
を強く感じさせる。ただ、「為」字の意味分化あるいは意味の連関を
考へる際の一つのヒントにはならう。

今はわづか一例の対比であるが、「被」と注されるものの文脈に
は「之」「所」字があつたりなかつたりするが、本質的に相違はな

い。なほ、これを「…のために…せらる」と訓む場合、考へ方によつては一種の再読である。もつとも「為」字を再読するなどといふ意識は全然なかつたためであらう。「倭点」の場合あまつた「ル・レ」を「所」字にあてた如くであり、「為」字は足利本とともに「タメニ」以上でも以下でもなく、「ラレ」は「為」字と無関係の如き扱ひではあるが。頂妙寺版の点が「ラ」と「レ」を分割してゐるのも似た意識であらうか。頂妙寺版では、むしろ「所」を「ラ」とし、「ラ」は「所」の定訓の如き扱ひもみえる。№83「為_ル火_ヲ所_レ焼_カ」、№88「為_ル大火_ニ所_レ焼_カ」などは、活用との関係で妙になることもおかまひなしである。〈せ・らる〉となるものは、表面上かういふ問題は起らない。それを国訳一切経はまた「焼_カらる」と訳してゐる。他にも一部にはかかる奇妙な訓読文もあるが、さすがに「焼_カる」としてゐる。

「作」は116例と当然ながら多い(列挙は省略する)。和訓との関係でいへば、ス・ナス・ナル・ツクル等であるが、逆にこの和訓が全部「作」と一致してゐない。和訓との関連では「是」訓100例とも密接なつながりがある。「コレ…ナリ」と「…トス」「…トナス」とは、そのとらへ方、表現の仕方は異なるが、内容的には近似し、若干の解釈の差があるにすぎない。№269は為_ル章「作_レ是」二訓、№546は「是_レ作」二訓である。この点は「名」の9例(№22 33 74 86 87 287 300 301 508)も同様で、和訓で「…トナヅク」とされるのが最も普通であるが、「…トス」「コレ…ナリ」と大差はない。同じ「為」字が表はすものであるから大差あらう筈がないといふ論が容易に出て来さうな、それゆゑ、「作」

とするか「是」とするか「名」とするか、はたまた「定」とするかは高度に微妙な解釈に属する問題を含むし、逆に、このそれぞれの解釈の接点は割合感じ取りやすい。「定」を加へた四訓は「得」をまた接点に「被」に連なる。但し、「当」の位置については今十分納得いく説明ができない。

以上、為_ル章の概略を、その訓を中心に述べ、若干の問題点を指摘してきた。少し長すぎた嫌ひもあるが、為_ル字訓の整理にはこの方法が割合便利であり、他により適当な方法があるかもしれないが、今急にも思ひよらないのでかかる次第になつた。

ところで、為_ル章訓と和訓との関連は、右にも特に問題のものについて述べたが、非常に興味ぶかい問題である。一致するものも関心を引くが、特に不一致とみられるものについては種種の問題を提起する。これもまた後日を期するが、その関連をもつて以下の点をのべる。

為_ル章訓と立本寺本、竜光院本の漢字注の比較は、右にも少々ふれはしたが、大要興味ぶかく、且つ重要な事柄である。為_ル章のテキストにやや不安があるので、その一瞥にとどめ、解決は後に譲らざるを得ないが。

立本寺本の漢字注と為_ル章訓との比較が表五である。

立本寺本は、序品(為_ル字23字、漢字注15、以下、上段に為_ル字数、下段に漢字注の数を示す)、方便品(40/27)、裏草喻品(15/12)、授記品(17/13)、化城喻品(52/23)、五百弟子品(25/18)、人記品(13/

				声	去	声				平				声	訓
(3)	(2)	(1)	計	与	以	名	是	成	作	被	定	得	当	求	品
1	6 ①	0	15	6	1	1	2		1		3	1			序
0	13	2	27	7	10	1	4		1		3		1		方
			/												譬(欠)
			/												信(欠)
0	3	3	12	5	3		3						1		草
0	4	0	13 (5)	2	2				5 (5)			1	3		授
2	27	6	23 (3)	5 (1)	12		5 (2)		1						化
1	6	3	18 (6)	2	5		1 (+1)	4 (4)	4 (2)			2			五
0	6	0	7 (4)			1	1		4 (4)			1			人
			/												法(欠)
1	24	1	13		6		5		1				1		宝
0	6	0	12 (1)	3 (1)	6 (+1)				3						提
0	0	2	11		3 (+1)		1	(+1)	3	1			2	1	勤
0	17	2	27 (1)	12	5		5		4 (1)			1			安
0	2	1	10	3	3		2		1				1		涌
			/												寿(欠)
			/												分(欠)
			/												随(欠)
			/												法助(欠)
0	4	0	0												不
			/												神(欠)
0	0	0	3	1	1		1								囑
0	16	1	8 (1)				3 (+2)		1 (+1)	3		1 (1)			藥
1	15	0	5	2	2				1						妙
			/												觀(欠)
			/												陀(欠)
			/												嚴(欠)
1	1	0	11 (1)	2	1					3		5 (1)			普
7	150 ① 音字	21	215 (22) (+7)	50 (2)	60 (+2)	3	33 (2) (+3)	4 (4) (+1)	30 (12) (+1)	7	6	12 (2)	9	1	計

() 内は添上入注で内数

(+)印は添上注の重複

宝塔品は一部欠、不經品は一部あり

(1)版 「為為章」訓と不一致漢字注

(2)同 漢字注なき為字の訓が「為為章」訓と一致せるもの

(3)同 漢字注なき為字の訓が「為為章」訓と一致せざるもの

〔表五〕 立本寺本古点漢字注と「為為章」訓との比較（立本寺本は門前正彦氏「立本寺本古点漢字注と「為為章」訓との比較」による）

7)、宝塔品^(註23)(38/13)、提婆品(18/12)、勸持品(11/11)、安樂行品(44/27)、涌出品^(註24)(12/10)、不聲品^(註25)(4/0)、嘱累品(3/3)、藥王品(24/8)、妙音品(21/5)、勸發品(13/11)である。為字全部で373例、この内215箇所に漢字注がある。その内わけは、以60、与50、求1、当9、得12、定6、被7、作30、成4、是33、名3である。この内には興福寺寿慶聖人の点を本とした墨訓の与2、得2、作12、成4、是2を含む。その他、白点(立本寺本の主たる点)と相違した墨訓(寿慶訓)が、以2、作1、成1、是3ある。この重複訓は、同じ墨訓内でも生じてゐる。例へば、№379には、ともに墨訓で「与也」(左)「以也」(右)と二訓を伝へてゐる。№289も同様である(成と是)。また、白点との異訓を伝へるものもある。№390、白「被也」、墨「成以也」である。かかるものについても精査を要しよう。重複訓のあるのは、№289 379 390 523 546の5箇所^(註26)である。これも為章との関連深さをうかがはせる。漢字注の施されてゐる箇所は、重複訓を加へれば7例ふえる。この内、為為章との不一致は21箇所(重複注の場合は、為為章の方でも二訓あるものがあり、一部が一致してゐれば不一致の中には入れない。従つて今の場合、重複注については不一致箇所の増減はない)つまり、一割弱の不一致である。№267 275 276の「成」は、為為章「作」で、文字上は不一致であるが、内容的には一致に近い。№49「定」(為為章「是」)も近い。他の不一致訓中、立本寺の方がよく思はれるものがいくつかある。№46 179 209 248 252である。逆に為為章訓の方がよりよく思はれるものは№206 207 241 437^(註27) 52である。どちらでもよいもの

もある(前記4例のほか、180 335 398 416である。他に173 381 387は判断を控へる)。すべてについて断言するには為為章側の資料的確度が問題である。九割以上の一致をみるものであれば、かへつて、古点本の漢字注がその資料的価値を持つて参考になる。

立本寺本古点中の漢字注のあるものについては大略右の如くであるが、漢字注のない158箇所中、字音の1例、及び、7例の不一致(№17 215 247 264 336 548 610^(註28))を除き、150例は為為章訓と一致してゐると認められる。この一致は、文字の解釈が一つしかないとすれば当然といふことになるが、さうでもない様子からみれば、むしろ驚くべきことかもしれないし、少なくとも、為為章との関連性を窺はせ、又、為為章訓の重要性を指摘する一つの材料にならう。仲算の「法華経釈文」中の「慈恩云：」は為為章を直接さすものではないが、為為章が目に触れてゐなかつたとも考へにくい。

次に、竜光院本古点の漢字注と為為章訓との関係を示したのが表六である。

竜光院本は、藥草喻品、授記品、化城喻品の全部と序品(為字№20 21の部分、以下(一)内欠けてゐる為字番号)、方便品(№52 53)、譬喻品(№90 103)の一部を欠く。№367は、大坪氏に従つて、ないものとし、№526はない。為字全部で514字である。この内144箇所に漢字注がある。内わけは、以60、当6、得22、定4、決1、被9、是32、名10である。割合でいへば、立本寺本よりよほど少ないが、「与」「作」が一例も注されてゐないことも多少関係がある。これがないことは注目しなければ

					声	去	声				平				声	訓 品
(4)	(3)	(2)	(1)	計	与	以	名	是	作	被	決	定	得	当	求	
21	2	13 ①	1	5				2			1	1	1			序
38	0	22	1	16		9	1	5						1		方
67	2	42 ②	2	21		9	2	5				2	3			譬
24	3	14 ②	0	5				3					2			偈
				/												草 ^(欠)
				/												授 ^(欠)
				/												化 ^(欠)
25	1	16 ①	0	7		4		1					2			五
13	0	11	0	2			1						1			人
26	1	19	0	6			2						4			法
46	2	34	0	10		7		2						1		宝
17	1	11	0	5		5										提
11	0	3	2	8		4							1	3		勸
44	0	33 ②	1	9		4		4					1			安
12	0	8	0	4		3					1					涌
18	0	11	2	7		5		1		1						寿
19	0	7 ①	2	11		1	2	6		1			1			分
9	1	4	0	4		1		1					2			随
9	0	9	0	0												法 ^め
11	0	10	0	1			1									不
5	0	3	1	2		1		1								神
3	0	2	0	1		1										唎
24	0	23	0	1				1								葉
21	1	18	0	2		2										妙
27	0	23	1	4		1	1			2						観
6	0	5	0	1		1										陀
5	0	3	0	2		1								1		嚴
13	1	2	1	10		1				5			4			普
514	15	346 ⑨ 音字	14	144	0	60	10	32	0	9	1	4	22	6	0	計

(1)(2)(3)同は〔表五〕と同じ

(4)同 各品毎の為字總數(脱落あるため宛本と不一致)

〔表六〕 竟光院本古点漢字注と「為為章」訓との比較(竟本は大坪併治氏「訓点資料の研究」による)

ならない。「与」「作」は、いはば、為字の去声、平声の代表的な訓（意味）であり、他は、その微妙なバリエーションと考へられるところから、「与」「作」はわざわざ注さなくてもわかるものとされた公算大であり、その点で、「与」「作」のないことに意味がある。逆に、微妙な「以」「得」「是」とその他は注意ぶかく注記したといへよう。「洪」（№9）は、為章にはないが、この例は為章訓「定」であり、立本寺本での「作」→「成」と事情似かよふ。為章訓との不一致の№9を入れて14例、この内、№46824682は竜本注の方がよいと思はれる。№119は為章訓空欄であるが、竜本により「以」としてよからう。又、№381は為章「是」に対し、竜本注「当」である。これについては、「当」そのものに問題があるが、381は№385とほぼ同じ語句（381唯願世尊不以為章—385唯願不為章、385は偽文で、381のくり返しである。傍線部の訓読はほぼ同じ）であるのに、為章が一方を「是」、他方を「当」とするのようになつけない。「是」より「当」をとりたい。№386は竜本「当」だが、立本、為章同様「是」である。№455「以」（為章「与」、以下同じ）、№470「名」（是）、№471「名」（尊例せず）、№518「是」（作）、№530「名」（作）、№613「被」（得）など、細かく検討すれば興味ぶかいものである。

漢字注と為章訓の一致程度は立本寺本と大体同じである。漢字注なきもの370箇所中、字音9例、不一致と思はれるもの15例（№81764711511632843353361374485548610）、346箇所の和訓は為章訓と合ふ。

法華経中の為字和訓について考へてみる。表七は平安時代の点本の立本寺本（〇七七八）、竜光院本（一二三三）、中世の足利本仮名書き法華経（三三〇）、心空刊倭点法華経（三三七）と、近代の訓訳として平楽寺書店版訓訳法華経（大5・8、ほぼ頂妙寺版の訓点（天保五年初版）と考へてよい）と、山川智恵の和訳法華経（明45・12）、清山梁山訳の国訳大蔵経（大8・5）、坂本幸男・岩本裕訳注岩波文庫本（昭37・7・42・12）の訓を並べたものである。一々の対照ではないが、大体は推知できると思ふ（表八はこれを各品毎に示したものである。但し、対照本は近代を平楽寺書店本のみとした。なほ、このほか、島地大等著「漢和対照法華蓮華経」（大3・8）、馬田行啓訳国訳一切経本（昭3・12）、「国語法華三部経」（昭8・1）、大島伸太郎・田中喜久二著「漢和対照法華経並開結」（昭18・1）における訓読は若干の違ひはあるが、頂妙寺版訓点によつてをり、平楽寺書店版と非常によく一致する（例へば、為字和訓を仮名書きにするもの、平133に対し、一切則、国語132、対照法華139である）。平楽寺書店版で、頂妙寺版ともども、右諸本を代表させた。また、国訳大蔵経本と、昭和新纂国訳大蔵経本（昭4・5）も頂妙寺版訓点に近く、右諸本中に位置させてほとんどさしかへないが、僅かに違ひがあり、直接日蓮文段経につながる部分もある。又、この二本は非常に近いので、国訳大蔵経本で代表させた。

和訓の種類だけを見ると、「倭点」の7種と「和訳」の20種と約3倍のひらきがあり、他は、ほぼその中間の数である。「和訳」の多さはかなり自由な訳を志してゐることがその「冠十冕則」にて知られる

〔表七〕 法華經訓読文又は訓点の爲字

岩	和	国	平	倭	足	庵	立	本	訓
3	8	10	17			65	62	モテ・モッテ	
354	324	312	304	368	(11) 348	207	122	タメ	
110 173 12 50 9	107 148 28 41	105 141 22 44	105 138 22 39	106 180 29 52 1	103(1) 169(7) 28(2) 47(1)	97 91 16 3	47 55 18 1 1	タメニ …のタメ (体)がタメ (用)がタメ (用)タメ	内わけ
							1	タスク	
							1	モトム	
					1	6	9	マサニ	
13	13	20	23			23	11	ウ	
4	3	12	8			8	6	サダメテ	
						22	8	カブル・カウブル	
6	21	28	26			1		ル・ラル	
7	38	23	64	172	140(2)	47	39	ス	
107	88	76	48	15	13	19	19	ナス	
35	25	26	25	32	24(5)	14	17	ナル	
1	1							ツクル	
63	66	82	72		18(4)	78	68	コレ	
8	10	6	7	20	36	4	3	タリ	
5		1			(1)			ナリ	
	1							オナジ	
2	5	5	7			10	3	ナヅク	
3	1	6	6					ベシ	
		1						ムカフ	
	1							ココニ	
	2							ナン	
	2							ワザ	
	1							ユエ	
						1		アリ	
					2			ゾ(存疑)	
5	5	9	9	9	8(1)	9	4	音	
	2			1	1			無訓	
					1			異文	
616	617	617	616	617	(24) 592	514	373	計	
483	38	69	133	/	/	/	/	仮名書き	

〔立〕…立本寺蔵本妙法蓮華經古点(寛治元〜二年一〇八七〜八八点)
 〔庵〕…庵光院蔵本妙法蓮華經古点(明算一三三〇七点)
 〔足〕…足利本仮名書き法華經(一三三〇年) 内は文政八年刊記摩尼園蔵板本による。
 〔倭〕…心空刊倭点法華經(一三八七年)
 〔平〕…平楽寺書店版訓読法華經(大正五年八月)
 〔国〕…国訳大藏經所収本(清水梁山訳、大正八年五月)
 〔和〕…和訳法華經(山川智広訳、明治四十五年十二月)
 〔岩〕…岩波文庫本法華經(上中下) (坂本幸男、昭和三十七年七月〜四十二年十二月)
 〔タメ〕…の内わけ、独立用法「タメニ」、「…のタメ」、体言十がタメ、用言連体形十がタメ、用言連体形十タメに分けたもの。

〔表八〕 五本における各品毎の訓比較（諸本の記号は表七と同じ）

*マシマス1例
イマス1例 } フ含ム

化城品				授記品				薬草品				信解品				譬喩品				方便品				序品				品名			
平	倭	足	立	平	倭	足	立	平	倭	足	立	平	倭	足	立	平	倭	足	立	平	倭	足	立	平	倭	足	立	諸本			
		13				2				3				6		9			10	11			1				1	モツテ			
30	31	31	18	4	5	4	3	10	10	10	7	12	12	11	11	28	50	48	20	30	30	30	19	19	13	15	15	11	12	タメ	
5	5	5	5				1	3	3	3	3	4	3	3	5	15	17	17	15	6	6	6	6	6	5	6	6	5	5	タメニ	
12	13	15	8	4	5	4	2	5	5	5	3	6	7	6	4	9	23	21	4	18	18	18	10	10	6	7	7	6	6	のタメ	
3	4	5	4				1	1	1	1	2	2	2	2	2	4	4	4	1	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	例がタメ	
10	8	6	1				1	1	1						2	6	6		3	3	3	3	3	1	1	1				例がタメ	
	1																														用タメ
																															タスク
																															モトム
		1				3				1													1	1							マサニ
			1			1				3			3	3		3							1			1	1				ウ
														3		2	1			2	3	3				3	3				サダメテ
																10															カウブル
															13		1														カブル
10	14	11	4	2	8	9	6		5	3		2	10	7	2	4	20	19	5	3	7	5			1	5	5	1		ス (サ)	
5	4	4	4	7	1		2	1		1	3		1	3	7	2	3			1		1	1			1	1			ナス	
3	1	1	1	3	3	3									3	2	3	2		1	1			1			1	1		ナル	
																															ツクル
3		1	11				3		2	3	2		2	3	11		1	5	4			5	4	1			2	2		コレ	
1	2	2	1			1						1		1	5	8	3		2	3				2	2					タリ	
																															アリ
																															ゾ?
																															ナリ
																															オナジ
																		2	1			1	1	1				1			ナツク
							1												1												ベシ
									2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					1	1	1	1	1	1	1		音
																															無訓
																															異文

内わけ

名古屋大学文学部三十周年記念論集

[illegible]

・マシマス

名古屋大学文学部三十周年記念論集

内わけ

神力品				不 輕 品				法功品				隨喜品				分別品				寿量品				涌 出 品				品名		
平	倭	足	竜	平	倭	足	竜	立	平	倭	足	竜	平	倭	足	竜	平	倭	足	竜	平	倭	足	竜	立	諸本				
			2								1			1			1	1		5	2			3	3	モツテ				
4	4	(4)	2	10	10	9	10	4	8	9	9	8	5	6	5	5	6	7	(7)	5	12	14	14	8	6	8	8	5	5	タメ
3	3	3	2	1	1	9	9	9	4	6	7	8	7	4	1	5	4	4	4	3	3	4	4	2	3	2	2	2	2	タメニ のタメ
1	1								1	1							1	2	2	1			1		1	1	1	1	1	備カタメ 用カタメ
		1																												用タメ
																														タスク
																														モトム
																											1			マサニ
									1			1		2	1		1													ウ
																										1				サダメテ
																			1			1								カウブル カブル
															1					1										ルラル
	1				1	2						1	3	2			5	(2)		1	3	2	1		2					ス (サ 登)
												1								2	1	2	2							ナス
																	6	(5)							1		1	1		ナル
																														ツクル
1		(1)	1										1	1	8		(3)	8	1			1	3		3	2	2			コレ
												1											1	1	1					タリ
																														アリ
																														ゾ?
																	(1)													ナリ
																														オナジ
			1			1										2		2												ナツク
												1																		ベシ
																	1	1	(1)	1										音
																														無訓
																														異文

6598

[illegible]

ので当然であり、為字の和訓といふ域を越えてゐよう。逆に「倭点」の少なさは字に即した訓法による。ここで特に目立つのはスの激増である。厳密にいへば「為」とあるものは「ナス」も含んでゐるかもしれないのを、全部「ス」としたことによるかもしれない。しかし、足利本との全体的な親近性からいへば、172例のスの多くは、やはり「ス」と考へてやらう。

今、この表について一々コメントする余裕を持たないが、他に目立つものを一二指摘したい。「モテ」が、足利本、倭点でみられぬことが第一である。これはすべてタメに含みこまれてしまつた。しかし、その内若干数が日遠の尋跡抄、文段経で復活し、頂妙寺版に生かされた。「和訳」は自由であらうとして、少し切りすてた。岩波本はこれからぬけ出ようとしてぬけ出せなかつたといふ感じで残つてゐる。足利本、倭点のタメの多さは、これだけが原因ではないが、その原因の半分をこれが担つてゐる。又、この二本には、「ウ」「サダメテ」「カウブル」の訓もない。カウブルは以後姿を見せないが、ウ・サダメテは復活してゐる。カウブルは、他本ではル・ラルで生かされたのであるが、この二本にはそれもない。但し、全くないのではなく「ノタメニ」セラル」式になり、為字和訓は常識的には「タメニ」でみたとされ、下の受身表現の部分は「所」の訓とされたり、送り仮名になつたりして「為」の和訓とは認めがたいといふことである。これによつてもタメが多くなる。

「和訳」の訓については前記のとほりであるが、もし「為」字が宛

てなければ、それが「為」字の訓とはわからぬものもある。コユニ(Na 209)、ナム(ン)(Na 173 298) などそれである。Na 294 329 はつひにどれが為字訓か見定めて指摘できない。これは、かなり自由な翻訳で(といつてはまた範圍が狭がりすぎるが)、その意味では意義あるものであるが、為字訓の伝承・系譜といふことをみる場合には、別に考へた方がよい。それは岩波文庫本訓読にも別の意味であてはまる。但し、いづれも、全く伝統を脱却してしまつてゐるかといへば、さうでもない。「和訳」の「モツテ」「ベシ」「ウ」の訓にそれをみてとれる。岩波本も同様である。

為字の和訓をみると右のごとく多彩であるが、目を他に転ずれば、これ以外にもいろいろある。めぼしいものをあげよう。

金光明最勝王經音義(承暦三年)には、巻五に「為」とあり、西大寺本金光明最勝王經古点には、モシ、ヨル、イフがあり、ツクルもある。興福寺本大慈恩寺三藏法師伝古点には、他にマナブがある。

古辞書をたづねれば、中にその訓義必ずしも明瞭ならざるものもあるが、また種種ある。天治本新撰字鏡には「專為和伊佐」(二六〇七)とあり、名義抄觀智院本には、以上のほかのものとして、「シワザ、ヲコス、スルトコロ、マネス、タツ、セヌカ、シカスル、エラブ、ワキ、ハラ、シク、ツヒニ、ヲサム、カスル、カルカユヘニ、ツクロフ、スルマネ、心ザシ」などがみられ、伊呂波字類抄には、名義抄のカスルと関係あらうかとみられるスカルといったもの、名乗字にあるユキ、スケ、あるいはハタがある。字鏡集、字鏡抄は、訓の数割合少ない

が、それでも、さらに、ヌル、シロシといふものをつけ加へることができる。法華經單字、法華經音訓（心空）にはこれ以外つけ加へるものはない。川瀬一馬氏古辞書叢刊別卷三の弘治二年写「和玉篇」には「ナウ ハサ ヲコナウ ヲコス マ子ク」といふ、それ自体が問題になるやうな和訓がある（慶長版などと比較すると誤写の可能性も十分ある）。日相上人の「法華經音義補闕」（元禄八年成、同十一年刊）にはマボルもつけ加はつてゐる（本満寺刊法華音義類聚坤冊10頁）。

しかし、表七の中、山川智応氏「和訳」のオナジ、ココニ、ワザ、ユエ、ナンといふものはともかくとして、この外に、タスク、モトム、ムカフも問題ではあるが、さらに、「ベシ」なる和訓は古点本古辞書類で管見にいらぬ。ムカフ、モトムも他資料における例を見てゐないが、訓を広義に考へれば、これもその文脈から大体見当のつく和訓である。それに対し、この「ベシ」は近世初期の日蓮上人の「法華訳和尋跡抄」にみえ、以下文段経妙法蓮華經、頂妙寺版妙法蓮華經に引きつがれてゐる。6例まとまつてある。№24173296381385485である。尋跡抄では№341もさうであるが、これは頂妙寺版は受けつがない。この系譜、由来、意味については種種検討の要がある。果して尋跡抄以前にはあるのか、ないのか。中世における注釈など殆んど未見であるから、博搜の要がある。日蓮において「当」「ベシ」と結びついたのである。それ以前に何かあるのか。余りにも簡単に、当ベシとなつてゐるのに不安を感ずるし、尋跡抄は為章と直接関係はないとはいへ、為章訓「当」が全部ベシでもなく、又、ベシは全部「当」でもな

(註47) 本稿ではその指摘にとどめる。

以上、僅か一字の訓についてとはいへ、問題の意外な拡がりのあることを知つた。古点本にも、量的には本稿使用の二本ほどのものはないとも、なほいくつかのものがある。南(都)北(總)での訓の相違もある(註48)。「南北相違抄」「南北音義抄」。つまり、学派間での訓の伝統である。平・去で文字の体をかへてある本もあるといふ。

各本間での和訓の比較、為章自体の問題、為章各訓と和訓、為章訓と漢字注の関係等等、本稿は若干の問題を扱ひ、多くの問題を提起した。以後の精査を自他に期する。

(昭53・10・29稿)

注1 東洋哲学研究所編「法華經一字索引」(昭52・11)があるが、これは該字をふくむ数文字による用例が掲出され、その面の便宜があるが、経文における出現順ではないので順にみていくに不便である。蛇足きみであるが、本稿で「一字索引」を示すのを省くためこれを出現順に番号を付して表示した。但し「一字索引」は№367・526を欠く。なほ訓訳の代表として平樂寺書店版と、便宜のため、岩波文庫本所在を示した(但し、この訓読文については遺憾な点もある)。

注2 大平併治氏「訓点資料の研究」(昭43・6)112頁。

注3 中田祝夫氏編「足利本仮名書き法華經經字篇」(昭51・9)155頁。

注4 「法華經音義類聚」(昭48・1、本満寺刊)420頁。

注5 但し、この合致はあくまで結果の数字のみである。このことは後述する。

注6 この文字数は本文の文字数。これは史木正幸氏「法華版経の研究」(昭29・1)148・149頁に掲載のものと合計は等しい。長行、偈文を別別にしただけ

が違ふ。独立の計算でかく一致するのでかなり確度の高い数字であるが、№526を含む10字の増減でも変る数字である。この10字は含まれてゐない。

なほ、異なり字数は奥木氏によれば七四六字、「法華経單字」の示す数字は「七五、心空の「法華経音義」では「一千七百八十有余」としてゐる。

注7 高島屋庄右衛門板行のもの、浅野久兵衛板行のものとがあるが、内容同一で同板。浅野久兵衛が求板したものともみられる。

注8 空欄補填と右の数字訂正のほかの訂正は次の通りである。① №72に77も加ふ(同一)。② №99に113加ふ(同一)。③ №102「爲求羊鹿」は本文は「爲求羊車」であり、他に103「爲求鹿車」、105「爲求牛車」とあるのを一つにしたらしい。103が筆例されてゐないので №102に103も加へる。④ №107に108を加ふ(同類)。⑤ №152筆例なし、「作」として加へる。⑥ №193に198を加ふ(同一)。⑦ №325に332を加ふ(同一)。⑧ №330に333を加ふ(同一)。⑨ №337筆例なし、「与」として加ふ。⑩ №344に345・349・351・353・359を加ふ(同一)。⑪ №351筆例なし、「与」として加ふ。⑫ №395に430を加ふ(同一)。⑬ №471筆例なし、「是」として加ふ。⑭ №475筆例なし、「是」として加ふ。⑮ №478に479を加ふ(同一)。⑯ №532・534・537に540を加ふ(同一)。

注9 広浜文雄氏「漢字のよみ」(訓点語と訓点資料)第三十二輯、昭41・2)

注10 「即時長者更与作字名之爲兒」(信解品、大正藏七a25・岩波文庫上37頁)「即時に長者、更に与に字を作つて、之を名けて兒とす」(平楽寺書店版、122頁上)

注11 「当」訓の9例は次のものである №24 184 188 192 231 341 385。

注12 立本寺本「当也」とするもの №24 173 184 188 192 341 381 385 437 の9例あるが、マサニと仮名訓をもつものは184 188 192 の3例、他は、むしろ、漢字注を援用して「爲を」まさに」とよむのである。竜光院本の「当也」をもつものは №24 341 381 385 386 であるが、仮名訓をもつものはない。

注13 必昇述「科註妙法蓮華経」卷三、延宝四年、中村五兵衛板による。(卷三、30ウ)

注14 №130には「得作」二訓、№295には「得被作」三訓があることを示す。但

し、第一につけられてゐる「得」訓の項に収めた。逆に「得」が第二番目以下に注されてゐるものはない。

注15 大坪併治氏「訓点資料の研究」(昭43・6) 328頁。

注16 注15と同じ。

注17 注8の④参照。

注18 この26例のほか、第二項以下に「被」と注されるもの №295 「得被作」 №390 「以被」がある。

注19 門前正彦氏「立本寺本妙法蓮華経古点」(「訓点語と訓点資料」別刊第四、昭43・12)による。

注20 大坪併治氏「訓点資料の研究」(昭43・6)による。

注21 「国語法華三部経」も №88 は「焼からる」。

注22 このほかに二訓以上のものの第二訓以下に6例(№52 112 141 150 235 546)ある。

注23 実際にはツクルの訓きはめて少ない。「和訳」 №52 「七宝もて台を爲り」(他は「爲して」又は「して」、爲爲章訓は「作」と岩波文庫本 №52 「沙を聚めて仏塔を爲れる」(他は「爲る」「爲る」である。爲爲章訓「与作」のみである。

注24 このほか、二訓以上のものの第二訓以下に4例(№65 66 269 273)ある。

注25 宝塔品は最初一部を欠く。爲字全部であれば46字である内38字を含む。不怪品は最初一部のみあり。爲字全部11字の内4字を含む。

注26 №269 墨一成也是也(爲爲章訓「作是」以下(一)内爲爲章訓、№379 墨一与也(左)以也也(右)(空欄、但し「与」か、№390 白一被也、墨一成以也(一)「以被」)、№523 白一作也、墨一是也(「作」)、№546 白一是也、墨一是也又作也(「是作」))

注27 №46 「是」(爲爲章訓「与」、以下(一)内爲爲章訓、注28・29も同じ)、№179 「以」(与)、№209 「是」(是)、№248 「以」(与)、№252 「以」(与)。

注28 №205 「以」(与)、№207 「与」(以)、№241 「以」(与)、№437 「当」(是)、№524 「得」(与)。

注29 №173 「当」(作)、№331 「当」(是)、№337 「求」(得)、この内、331は385との

関係からは、立本寺本「当」がよいやうにみえ、387は為為章の方が少しよいやうに思はれるが微妙である。但し、以上の判断（注27・29）はいづれも断案ではない。

注30 №17「為に」（為為章訓「由」以下（一）内為為章訓）、№25「為の」（以）、№27「為に」（作）、№29「成、為に」（当）、№33「為に」（与）、№58「為に」（以）、№60「為に」（是）。この内25は「以」を可とするが、本来なら「為の」でいい。ただ、立本寺本内で「以」は「為て」としてゐるため、不一致とした。1758は為為章訓不利である。264は判断をひかへる。247336610は表面的な不一致である。

注31 原本未見のため大坪氏に従はざるを得ないが、上欄外の「作也」は漢字注と考へること全然不可能ではないと思ふ。

注32 №46「是」（為為章訓「与」以下（一）内為為章訓）、№82「以」（被）、№416「以」（与）、№462「以」（与）。

注33 №8「為に」（為為章訓「以」以下（一）内為為章訓）、№17「為に」（由）、№64「為に」（是）、№71「為に」（作）、№151「為に」（作是）、№161「為に」（得）、№163「為に」（是）、№264「成、為に」（当）、№395「為に」（作）、№336「為に」（与）、№361「為に」（作）、№374「為に」（以）、№485「為に」（当）、№518「為に」（以）、№610「と為る」（是）。これらの内容は種種である。№81516335は為為章が可であらうし、№1771395は竜本訓の方をとりたい。№161485610はどちらも大差ない。№374518は「以」と「為に」で本来に立戻れば不一致とするところではないこと、先にも述べた。№64264361は判断が難しい。

注34 №294此法華經最為難信難解。——「此の法華經は、最も信じ難く解り難し」（和訳327頁） №329種種語實以爲莊校。——「種々なる諸の宝を以て校めたり」（和訳349頁）

注35 春日政治氏著「西大寺本金光明最勝王經古点の国語学的研究」（昭24・8）
注36 築島裕氏著「興福寺本大慈恩寺三蔵法師唐古点の国語学的研究 訳文篇・索引篇」（昭40・3、昭41・3）

法華經為字訓序説

注37 多少繰返しになるが、為為章では、№2418138192209264341385485が「当」、頂妙寺版以下で「ベシ」とするのはこの内№24385485のみ、日蓮は№341も「ベシ」とする。この外№173296381が頂妙寺版以下で「ベシ」である。№173は為為章「作」、立本寺本注「当也」、№296は為為章「得被作」、尋跡抄で「訓当」とす。№381は為為章「是」、立本・竜本注「当也」。「ベシ」とするものは、いづれかに「当」があるが、尋跡抄以前に「当」がないのは№296のみ、これも博搜すればあるか。

注38 「南北相違抄」（延慶二年）に「為」に関して「南云何爲 北云何爲 文」
「南云爲言 文 北云爲言 文」とあり。

（補注）叡山文庫に為為章の写本がある（室町期写とみられる）。これによれば版本、活版本を種種訂正できるが、これを調査しえたのは、本稿成つた後であるので、本稿では、一切この写本によつて訂正しないことにした。№336はこの写本ではまさに「助」としてゐるし、いろいろの数字についても知れることが多い。この本については別稿を草する。